

サポートツール実証データ

実証研究実施者	清水 菜穂子
区分 1	行動、対人関係・社会性
区分 2	多動、対人関係
領域	多動、コミュニケーションスキル、葛藤の処理
困難	じっとしていることが苦手でありやすい。すぐ勝ちにこだわってしまう。うまくいかない投げやりになってしまう。
サポートツール	ふれあい囲碁7
学年	中学3年生（ADHD）、中学1年生（MR）
試用期間	2学期 1/週
使用場所	通級指導教室
使用上の注意、条件	苦みの成分のコーティングがついているので注意
使用状況 ＜授業の構成等＞	<p>＜中3生＞</p> <p>生徒1名対1名でゲームをした。簡単なルール説明をし、すぐに開始した。</p> <p>＜中1生＞</p> <p>生徒対教員でゲームをした。「囲んだら勝ち」と簡単なルールと説明を行い、すぐ開始した。</p>
＜子どもの様子＞	<p>＜中3生＞</p> <p>すぐに理解し、時間いっぱい取り組んだ。最初は「何これ？なんでこんなにするん？」という感じだったが、やがて熱中し、チャイムが鳴っても飽きる様子はなく、ときどき歓声を上げて楽しんでいた。</p> <p>＜中1生＞</p> <p>「囲碁はおじいちゃんの家にある。将棋はお父さんとやったことある。」と興味を持った様子。ルール理解が難しい時は補足説明するなかで徐々に理解し楽しんだ。囲めたときは大きく歓声を上げて喜んでいて。終了後、「家でもやってみよう！」と言っていた。</p>
留意事項	使用後はしっかりと手を洗うこと
評価	<ul style="list-style-type: none"> ・色や形が可愛らしく抵抗なく取り組める ・ルールが簡単ですぐに熱中でき、短時間で決着するので手軽に取り組みやすい ・意外な落とし穴があるので集中力を養い、また先を見通す力が付く ・碁石の色や形が子どもにとって興味深い。突起は「目の見えない人のため」と理解できていた。 ・パッケージのレイアウトや文章も興味深いようで、終了後に声を上げて読んでいた。
サポート・ツールの概要	